

自粛期間中の活動状況について

理事長 山口浩利

昨年の師走に武漢で突然出現した新型コロナウイルスは、瞬く間に国外へと拡がりその正体や特徴を把握した対策が暗中模索の状態のままに一日千里を走る速さで空（航空機）や海（クルーズ船）そして陸を経てアジア・欧州・ロシア・米国さらに南米・アフリカへと侵入し、日本にも1月早々には上陸しました。類似の100年前のスペイン風邪の情報をネットで読んであらためてその規模と期間にあらためて驚きました。

この間の100年は著しい科学の進歩と、裏腹には人や物の流れは二桁増のスピードアップが逆効果にもなっていますが、新型ウイルスと人類との21世紀の戦いは電子顕微鏡で相手を視ることが可能にはなりましたが、互角か結局は人類側の6割が感染の洗礼を受けて免疫を持つに至るか、或いは治療薬やワクチンの開発、のいずれかに到達するタイミングで漸く終息するとの解説に納得しました。そうなるとグローバルな沈静化には100年前と同じで当分はウイルスとの共存を認めて感染の極小化を図り、ワクチンを待ちながら経済の再生に向かい回復を目指す筋書きしかなさそうです。

この3月～5月NPOクラブは外出活動を自粛し、会員自身が罹患しないと同時にウィルスクリアーにならないことを心掛け、内部の定例会議等は全て中止にして、業務上欠かせない小人数の会議のみを許可制で可とし、神田と大阪の事務所は常時クローズを続けていました。

この間、NPOクラブでは、先ずは内部および外部とのWeb会議が可能となるように、NPOクラブのOAシステムに組み込み済みのGoogle Meetを活用する練習を始め、参加者も逐次増えて全グループの月例会等をWebで開催するに至りました。また外部組織・個人とのWeb会議も試行されつつあり、今後の課題は外部とのWeb会議を出来るだけ幅広く（システム、セキュリティ、便利さ等）相手方に対応できるようにハード・ソフト両面でのグレードアップを積極的に進めていきたいと思っています。

さて、経済活動再開は、先ずは旧に復すことを目指すことにはなりますがそのプロセスは、事業分野の広さ、サプライチェーンのネットの複雑さや、規模の大小、地域特性、環境インフラの相違、コロナからのダメージを受けた量等々により、千差万別と云えますが、例えば車の業界を仮想してみますと、先ずは各国の超大手企業間の回復競争が始まり、それが国の争いになりイデオロギーが優先支配することになり泥沼化するとかの危惧や、Tier 2や3の中大手にな

ると、先手必勝、知恵の競争、変わり身の早さとその決断力の競争、傘の下等々、新たな組み合わせをめぐる熾烈な競争が始まることが予感されます。車以外の工業界の各分野や他の業界に於いても純粋に国産品だけの組み合わせでもない限りやがては同じルートを辿るように思われます。

極端な仮想は横にさておいて、NPOクラブがこれからまたコロナ後にどのように中小企業の皆さんへ、コロナ禍で受けたダメージからの立ち直りにお役に立てるか、従来型支援にプラスして二つの研究会が考えた問いかけへの反応を期待したいと思います。従来型に知恵やアイデアを付加し、また周囲の情報を取り込んだ新しい提案を拡げていきたい。其のためにも耳を拡げ情報を共有し合うことでNPOクラブ内部のポテンシャルの向上を乞うご期待であります。

＜まずは、抱えられている緊急課題や懸念を把握することから！＞

問いかけ先の組織	主たる対象業種 (組織・団体等)	課題の種類	NPO内部で相談プログラムを保有するグループ
支援先(実績がある)企業	全業種	各種補助/助勢金 融資、等々	・補助金制度活用支援研究会 (NPO独自の手伝い 及び、提携専門家へ紹介)
	ものづくり業主体 (特定支援会員～ 一般会員)	企業の問題点抽出 と課題の見える化 を図る	・中小企業経営強化研究会 アドバイスの提供 「ビジネスモデルの問題点・ 課題の見える化」又は 「経営に関わる課題の相談」
新規に ・省庁 ・自治体 ・商工・中央会 ・金融 ・学校 ・協会・組合 ・その他	全業種	*従来型の提案 *新規提案を会員 から(情報の共有 化と意見交換の機 会増)	・案件対応グループの各分野 毎にチーム力で解決へ